

KSKP

たびだち つうしん

出

発

通

信

164号

NPO法人 出発のなかまの会



一九八四年 八月二十日 第三種郵便物認可
 毎月 1・2・3・4・5・6・7・8の日 発行

もくじ
目次

ボランティアをして感じたこと	2
ふくしま ^{けんしゅうりょこう} 研修旅行2018!!	4
どんどん ^{しんぶん} 新聞より	5
寛容さを共に ^{かんよう} 育 ^{とも} み ^{はぐく} たい	6
ヨルダンひろば ぶれーぱーく	8
みらくるクラブで高取山 ^{たかとりやま} キャンプに行ってきました!	9
私 ^{わたし} たちは地域 ^{ちいき} で暮らして ^く るんだ~グループホーム編 ^{へん} ~	10
スタッフ ^{こそだ} 子育て ^{にっき} 日記	10
私 ^{わたし} たちは地域 ^{ちいき} で暮らして ^く るんだ~ひとり暮らし ^ぐ 編 ^{へん} ~	11
活動 ^{かつどう} のあと	12

ボランティアをして感じたこと

9月某日、この日の倉敷は時折陽は差すが薄曇りで暑さは感じない。ボランティアを乗せたバスが大きな橋を渡る。水が少ないのに幅が広い川岸で、ショベルカーが作業をしている。河川敷の工事か？などと考^{かん}えていると、車窓から見える町の風景の変化に気づく。家やアパート等の建物はそこにあるのに、1階の扉^かや窓^{とびら}がなく、あっても“もぬけの殻”で、生活している気配が見当たらない。コンビニ、ガソリンスタンドなどが営業しているだけで、散髪屋、クリーニング店、ペットショップや歯科も、1階がガランとしている。2階に洗濯物を干している家もチラホラ見受けられるが、生活している風景は見えなかった。

しばらくしてバスがボランティアセンターに到着。「おはようございます」の元気な声に迎えられ、横5列に並んだ椅子に座るよう促される。この5人が1チームとなる。私のチームは立候補してくれた30代の女性がリーダー、メンバーは最年長75歳の男性、60代の男性、30代の男性、私の5人。オリエンテーションの後、約40人がバスに乗り、活動地区のサテライトへ移動する。私のチームはお手伝いするお宅に伺う前に、「いわゆる溜め込みの方で、なかなか捨てられないので、私も付き添います」と、元保健師でサテライトのボランティアから説明を受ける。

お宅の前には稲穂が実る田んぼが広がり、その先に小高い丘が見える。決壊した小田川の河川敷だ。東に目を移すとクレーン車が見える。遠くに見えるのが爆発事故が起きたアルミ工場だと元保健師が教えてくれる。工場付近には大きなクレーン車とブルーシートを被った家が何軒も確認できた。爆発事故で屋根が壊れ、二次被害に巻き込まれた家だ。

この地区は41年前に大きな水害があり、川岸に住んでいた人は高台に移動したり、80センチ高く家を立て直したそうだ。その後越えてきて家を建てた人は対策を取っておらず、知らなかったと考^{かん}えられる。今回は41年前を超える災害だったと元保健師が語ってくれる。「川が決壊した理由も色々あって、小田川は森で支流の川も林やった（川岸に木が植えてあった）。それがウォーターバックを引き起こしたという説。ダムは本来大雨の前に放流して空にするんだけど、今回は空に出来ず降雨中に放流したから決壊したという説。どれも水害の要因」、「川の向こうは普通に日常がある。なんでだろうと思うけど、だから助けてもらえている」。川が災害の境目になった。自然災害の怖さと被災地の方のやるせなさが私のなかに襲ってきた。頷^{うなず}くだけで、言葉が出なかった。

依頼者は 30 代後半の女性。母と 2 人暮らし（母は避難所において不在）。ボランティア要請は 6 回目。家屋 1 階部分が浸水。左隣のお宅は、片付けが終わり工事を待っているようだ。右隣は取り壊しも終わり、ほぼ更地になっている。



今回は、押し入れ、棚、家具から物を出す作業の依頼。一部屋は仕分け済みで、要る物をゴミ袋にまとめて置いているため、足の踏み場がほとんどない。荷物の上に綺麗に並べられた写真を発見。「そこ（の部屋のもの）はつつかん（触らない）ように、みんなに言うてください」と、依頼者は何回も訴えている。知らない人から見れば、泥だらけの本や雑貨、日用品がいっぱいだが、大切にされている物だということが伝わってくる。いや、どうしたら良いのかわからず、決められず、とりあえず入れているのかもしれない。

家具は水を含んで膨張している。扉や引き出しは壊しながら開け、中の物を取り出して干す。衣装ケースには水が入りこんでいる。台所の棚から調理器具や食器を外に出す。やはり水が出てくる。約 2 ヶ月の間、手がつけられなかったのだ。沢山の湯のみを見て「こんなにあってもね～」と依頼者がポツリ。しかしお母様の物なので勝手に捨てられないそうだ。

ボランティアが「これ、外に出そうか？」「先にこっちやったら？」などと口々に言い始める。依頼者が「ちょっとまって」とプチパニックに。元保健師がそれに気づき「ちょっと黙ってください」と一喝。私たちボランティアは「前に出さず」「押し付けず」活動するために来たのだと改めて学ぶ。

依頼者は元保健師と相談しながら作業を進めている。「袋、そこにあるからどんどん渡して～」と指示をもらったのは、開始から 30 分を過ぎてからだった。ボランティアを依頼したとはいえ、知らない人に家の物を触られるのは、どんな気持ちなのだろう？

約 3 時間で活動は終了。まだ作業できるかなと思えたが、このくらいがお互いしんどくない時間なのかもしれない。依頼者は笑顔で「ありがとうございました」と何度も頭を下げて



いる。気づいたら私も「ありがとうございました」と言っている。このやりとりは依頼者を傷つけていないのか？ふと頭をよぎる。ボランティアセンターでは「お疲れさまでした」と笑顔で冷たいコーヒーやジュースとともに出迎えてくれた。心遣いに癒されつつ、私は日常に戻っていく。

(アツコ・S)

ふくしま研修旅行2018!!

「行こ!、マクド!」

突然の、Tさんの一言に、福島県で出迎えてくれた人たちが耳を澄ましています。「マクド?」「行きたいの?」と聞き返されると「うん!」と満面の笑みを返すTさん。今年6月に訪れたふくしま研修旅行は、Tさんのこの一言から始まりました。訪れた場所は、福島県郡山市のNPO法人あいえるの会。生活介護「たいむIL」で法人代表のSさん、長年一緒に活動されているHさん、昨年7月に大阪に来られたMさんたちが出迎えてくれました。Tさんの一言に「一緒にいこう!」とHさん。つられて「俺もいくよ!」と代表のSさん。Tさんご一行は、「たいむIL」を飛び出し、郡山市のマクドに向かい、今回の旅行に参加したKさんとスタッフのJ、私の3人はご一行の帰りを待つことに。待っている間、Kさんはお風呂に一緒に行ってくれる人を探して、「たいむIL」の残った人たちに声を掛けていました。みんな、それぞれ、思い思いの自発的な、とても自由な行動(好き勝手?)は、面白い!!

2日目には、当事者メンバーが主体となって活動する「自立生活センター・どんどん」の活動報告をしました。グループホームや一人暮らしの様子、自分たちの生活史を話すKさんとTさん。食い入るように、大阪の、当事者生活の様子に耳を傾けるあいえるの会の皆さん。中でも、たびだちで年に一回やっている「スタッフ懇談会」にはとても大きな反応がありました。一年間を振り返って支援者に言えなかったことを話す当事者主体の懇談会の様子に、「これ、いいなあ」「うちでもやろう」「かわいいなあ」といったダイレクトな反応がありました。

最終日は森の美術館で、今後の展開について相談しました。大阪と福島、全国の団体のメンバーと、車座になって語り合う合宿をやりたい、とSさん。来年の6月、福島で開催することを目的として、そのプレ企画を大阪でやろうという事になりました。

昨年7月に、あいえるの会からMさんを受け入れて、今回の旅行で福島で交流することができ、そしてそのつながりは、先の合宿に広がりを見せています。

全国のいろんな団体と交わり、いろんな人とつながることを、自発的で、自由な発想で、面白い展開にしていきたいですね。

(マサヤ・M)



どんどん新聞No.169号から抜粋しています

どんどん新聞No.169



発行日 2018年 9月 25日
発行所 自立生活センター・どんどん
大阪市生野区田島1-10-30
tel 06-6758-6641 fax 06-6758-6749



スタッフ懇談会をしました。

日時:2018年4月26日(木)場所:すきっぷ会議室

◆言いたいこといっぱいあるんやで!

どんどんでは毎年、スタッフ懇談会をします。日頃言えない思いを支援者にぶつけるためです。始める直前は準備で大忙しです。タイトルはYさんが毛筆で書いてくれました。司会のMさんが「スタッフ懇談会をはじめます」とあいさつをしました。ところが始まりのあいさつはNさんの役目だったのです。Nさんは「セリフ取られた」とでも言いたげな表情でしたが、「おねがいします」とあいさつをし直しました。今回は、メンバー席と支援者席に分かれて伝えたいことを言い合います。

Kさんはなぜか支援者席の後ろの方に座り、「ここでええねん」と動きません。他のメンバーから「こっち来いや〜」と言われましたが、結局席は移動せずに始まりました。

まずはどんな気持ちからです。KSさんは立ち上がり「私言っている?」と確認します。

気持ちは「ぽつん」です。「最近ぽつんやねん」と、少ししんどそうに教えてくれました。Tさんは「ぽつん」と「えへん」です。次のどんな気持ちに、支援者側のHさんを指名し「ぽつん」と言いました。Hさんは「ちがいます。「どうしよう」ですね」と伝えました。

メンバーからの話が始まるとNさんが「(一人暮らしの人たちの)食事会のときにHOゲージの話をしたい」とSさんに訴えます。急ぎすぎて「Sさん」を「MSさん」と言い間違える場面もありました。一人暮らし担当のTMさん・Hさんにも話を聞いてほしいようです。TMさんが「HOについて教えて下さい」とお願いし、NさんがHOの本を持ってくることになりました。KSさんからは「Nさんばかり話してる!Mさん来るの遅いねん」と食事会への不満が拳がりました。関係者全員が集まり一人暮らし会議することが決まりました。KSさんは手紙も書いてきました。「新しいヘルパーさんが入るとき何をするか、すきっぷから説明して!」と怒りをぶつけました。やることを全部説明するのは大変で「ほっとかれてるみたいで悲しいねん」と訴えました。

普段からもっと私たちの訴えに耳を傾けてください!

寛容さを共に育みたい

先日、ある人から「子どもに対して寛容やなー」と言われた。これは、決して褒め言葉ではない。公共の場ではしゃいでいる（騒いでいる？）子どもたちにマナーを守るよう言わないのか、という批判をこめた指摘だ。そう言われれば以前にも何度か「子どもを怒らないんですね」と言われたことがある。私が短気なのは、誰もが知るところだと思っていたが、どうやら違う見え方もしているらしい。なぜ怒らなかったのかと言えば、この時は単純に“気になる状態”ではなかったからだ。何を“常識”“マナー”と考えるのかは、個人差が大きいということなのかもしれない。しかし、それだけではなく、子どもたちを権威で抑えるのではなく、“寛容さ”の中で私たちも共に育っていききたい、と思っていることも影響しているように思う。



みらくるちっぴでは、鬼ごっこが大人気で、幼児から小学校高学年の子まで、増え鬼、氷鬼などその時々さまざまな鬼ごっこを楽しんでいる。ある日のこと、A君（小学5年生）が「靴下鬼ごっこをしよう」と言い出した。普段は床が滑って危ないので靴下を脱いで遊んでいるが、靴下を履くと床が滑るので年齢の高い子も思うように動けず、鬼が偏ってしまわずに遊べるのだ。すると、B君（小学1年生）が「ぼくも！」と言いながら靴下を履き始めた。B君は動きが少しぎこちなく、スタッフたちが小声で「B君、危ないかなー。やめたほうがいいかなあ」と話していると、A君は素知らぬ顔で「やっば、“だるまさんがころんだ” しょうか」といだし、これにもB君はすぐに賛同し、参加した。そして、B君が先に帰ると、靴下鬼ごっこが始まった。

また、別の日には大きなお部屋や通り庭、談話室を使って氷鬼をしていたが、C君（小学2年）が「僕も鬼ごっこしたい」とい出した。C君は体が不自由なこともあり、A君たちのようには速く走れない。すると、A君がさっと大きなお部屋の扉を閉め、「大きなおへやだけでしょう！」と提案した。大きなお部屋だけなら逃げる場所も制限されるので、C君のスピードでも十分に鬼役も務められるのだ。A君は、複雑な家庭環境で育ち、これまでは「〇〇君はダメ！」「※☆ちゃんは入らんとって」などと排除したり、気に入らないことが

あると小突いたりすることもあったが、最近では大人が
助言しなくても、自然にいろいろな子どもたちと一緒に楽しめる
工夫をすることが増えている。



さまざまな年齢、特性を持った子どもたちが集まると折
り合いがつかず、排除しようとする動きが起こることもま
まある。しかし、それぞれの子どもたち自身が受け止めら
れる経験を重ね、自尊心が高まってくると自然とまわりに対して寛容になり、その心地よ
さ、楽しさを感じられるようになる。自分自身が十分に受け止められて初めて、相手の気持
ちにも目を向けられるようになっていく。“排除するよりも、受け入れ、工夫して一緒に遊ぶ
ほうが楽しい”と心から感じられるのだ。そうすると、子どもたち自身で、多様な子どもた
ちと一緒に遊ぶための新しいルールを編み出し始める。そんなふうに、子どもたちには大人
が決めた枠組みに従うだけではなく、主体的に多様性と共存していけるようになってもら
いたい。冒頭に書いた“公共のマナー”についても、“マナーだから守らなければならない
”ではなく、“自分たちの行動を不快に感じている人がいるようだ”と気づき、“みんなが
心地よく過ごせるようにしたい”という思いが行動変容の動機になればと思う。そして、そ
の気づきが生まれるようなアプローチが必要なのだろう。



子どもは大人（社会）を映し出す“鏡”だ。大人が寛容な態度
であたたかく子どもたちを見守ること、社会の中で寛容に関係を
築こうとする態度を持ち続けることが子どもの寛容さを育ててい
くことにつながるのだろう。子どもに問題があると感じる時、ま
ずは自分たち大人の態度を振り返り、“多様な子どもたちと共に”
育ちあっていきたいと思っている。

(ミサオ、K)



ヨルダンひろば ぶれーぱーく



ひろばに元気な子どもたちの声が響きます。板とブルーシートを組み合わせて作る 8 メートル四方もある大きな手作りプールが、プレーパークのメインの遊び場です。プールに設置した滑り台を滑ったり、腹ばいになって水の中を進んだり、竹シャワーの下をくぐったり、思い思いに遊ぶ子どもたちの顔が輝いています。それを見守る大人たちの笑顔もまぶしい。

カキ氷を自分で作って食べるのも一興です。竹の棒で大きなスイカを割る列には「次はわたし!」「もう 1 回!」と続々と並んでいます。お腹がすいたら流しそうめんコーナーへ。流れてくる素麺をすくい上げるのに必死で、麺つゆをつけるのも忘れて急いで麺を口へ運んでいます。冷えた体にたこ焼きが美味しい! タコせんにして、「はいどうぞ!」。手を真っ黒にしながらピザ釜作りにチャレンジしている子どももいます。その横ではノコギリやキリを使って竹製の虫かごや竹ポックリを作っています。ひろばに来た子どもたちは 1 日 中夢中になって遊びました。大人もすっかり童心に返っていました。「子どもたちがのびのびと遊べる場所がほしい」という思いは、「生野子育て社会化研究会」がおこなった調査でも明らかになっており、都市部で子どもの育ちを保障する上での課題のひとつです。そこで、プレーパーク実行委員会を立ち上げ、昨年度から準備を始めました。

西成区でプレーパーク事業をしている N さんにプレーパークをどんなふうに運営されているのか伺いながら、生野区でのプレーパーク実施に向けて話し合いを重ねてきました。子どもがのびのびと遊べることはもちろんですが、遊びのなかで「挑戦」できる部分があるといいなと思いました。それと同時にリスク管理をすることも大切です。今回も、N さんや高校生ボランティアが、さりげなくプールの中で安全を見守りながら、子どもたちの水遊びの楽しみ方を見事に引き出していました。

例年になく酷暑となった今夏、熱中症予防など安全面にも十分配慮して臨みました。プレーパークを実施するにあたり、たくさんの方から素麺を提供していただきました。また、プレーパークの趣旨に賛同する地域の団体や企業に物品提供や告知協力等、ご協力をいただきました。

当日は、たこ焼きを焼くボランティアや、会場設営、運営をしてくださったボランティア、子どもたちと一緒に遊んでくれたインターンの大学生など、多くの方々のお力添えで、無事に第 1 回「ヨルダンひろば ぶれーぱーく」を終えることができました。次回は今回みんなで作ったピザ釜でピザを焼きたいと思えます!

(カオリ・I)

みらくるクラブで高取山キャンプに行ってきました！

全国的にも猛暑日が続いている中、元気いっぱい走り回る子どもたちと一緒に高取山へ1泊2日のキャンプに行きました。



行きのバスではマイクを使って自己紹介をしました。大きな声でバスの中で響き渡り、出発から男の子たちのテンションはマックスです。

キャンプ場に到着すると、場内を散策し、そり滑りをしました。ちょうど暑い時間帯、噴水の出る時間になるとシャワーの前に子どもから大人たちまで集まり、水がくる方向に手を伸ばし恵みの雨を拝むかのような姿が印象的でした。

夕食のメニューは煮込みハンバーグ、水餃子スープ、おにぎり、デザートピザです。餃子、ピザの生地を仕込み、ハンバーグのタネを大量に作りました。子どもたちも飽きることなく最後まで一緒に調理ができました。食事ができ上がるまで、炊事場近くにある川へお兄ちゃんたちが入ると、次々に子どもたちが入っていき、わくわくとした表情で冒険していました。中には手をつないで歩く小さなカップルの姿もあり、その男の子は小石を投げて水の流れる音に耳を澄ましたりしていました。



そして夜は、宝探しにキャンプファイヤーです。顔にシールやマントをつけて宝探しに出発！皆でヒントを見ておもちゃをゲット。キャンプファイヤーでは火の周りを囲んで歌やゲームをしていると火の神様の登場…！？ですが、迫力満点の神様？あれは…鬼？なんて思わせる仕上がりでした。一日中遊び疲れた子どもたちが眠りについた後は大人たちのミーティングの時間。楽しみにされている人もいて遅くまで宴は続きました。

翌朝、子どもたちは起きた途端、廊下を走り回っていました。朝日を浴びながら「おしりたんてい」で体操をし、朝食をとり、ハイキングに出発です。子どもたちはそれぞれのチームに分かれ、山の中にある花や木を見つけながら歩きました。持ち帰った木の実で額飾りを作成しました。子どもたちの個性があふれる作品になりました。

キャンプで、子ども達が普段とは違う体験をし、自分で出来ること、自分からやりたいことができた時間をすごしたのではないのでしょうか。子ども達の楽しそうな姿が見られてとても元気がもたらえたキャンプになりました。

(ミホ・A)

わたし ちいき く へん
私たちは地域で暮らしているんだ～グループホーム編～

Kさんは買物が好きです。そして、買物に行く店の店員さんと話をするのが大好きです。毎週月曜日に買物に行っているお米屋さんは、Kさんの為にチラシやパンフレット、団扇等々…Kさんが好きなものを取っておいて、帰りにお土産にくれます。Kさんも「おおきにー！」と満面の笑顔で応え、大満足で帰宅します。

ご主人の調子が悪い時、心配で店の奥の部屋まで様子を見に行くと、「上がっていきー」と声をかけられ、炬燵に入り、お菓子をいただき、テレビを一緒に見る程に仲良くさせてもらっていました。その月曜日、旅行のお土産を持って、いつもの様にいつものお米屋さんに行くと「本日で閉店しました」と降りたシャッターに貼り紙がされていました。その後も何度か訪ねましたが結局お土産を渡すことは出来ませんでした。

それからの月曜日はほんの少しだけ遠くなった別のお米屋さんに行っています。新しいお米屋さんもKさんを歓迎してくれています。Kさんもお米を買い「おおきにー！」と満面の笑顔で帰宅します。馴染みの店が無くなるのは寂しいですが、Kさんは何度でも新しいお店に行き、何度でも新しい人間関係を作ります。そうやってKさんは地域生活を楽しく過ごしています。

(コウハイ・O)

こそだ にっき
スタッフ子育て日記



4月に3人目の子どもとなる次男を出産しました。2年生の長男は妊娠中の大きなお腹に毎日「お兄ちゃんやで」と話しかけ、楽しみにしていました。退院の日、おじいちゃんの家へ寄った時のことです。さっきまであんなに「かわいい！」と、大はしゃぎしていた子どもたちの元気がなくなりました。長女は急に腹痛を訴え、長男は「かわいいランキング1位は奪われた」と言って、みんながいる部屋から、すねて出てしまいました。弟はかわいいけれど、子どもたちの気持ちは複雑なんだと感じました。

自宅に帰ると長男が私と次男に1つずつキラキラの青と緑の折り紙で作った犬をプレゼントしてくれました。私の裏には「たいいんおめでとう」と長男の字で書いてありました。私は思いがけないプレゼントに驚き、喜びました。そして、次男の裏には「ようこそわがやえ」と、ありました。今も2つの犬の折り紙はリビングのよく見える所に飾ってあります。

(マサミ・W)

わたし ちいき く へん
私たちは地域で暮らしているんだ～ひとり暮らし編～

引っ越しの話(はなし)をします。みんなに引っ越しの手伝い(てつた)をしてもらい、引っ越し祝い(いわ)もしました。フジ(ふじ)でしました。乾杯(かんぱい)をしました。お好み焼き(このやた)を食べました。おばちゃん(おばちゃん)とよく話(はなし)をします。「引っ越し(ひっこし)は落ち着き(おちつき)ましたか?」「落ち着き(おちつき)ました」と話(はなし)をします。1人(ひとり)でもフジ(ふじ)に行き(い)ますよ。老人ホーム(ろうじん)の帰り(かえ)に、フジ(ふじ)のおばちゃん(おばちゃん)に「今日は(きょう)は食(た)べて帰(かえ)る?」と聞(き)かれました。「また(また)よります、あ(あ)りがと(と)う」と言(い)いました。

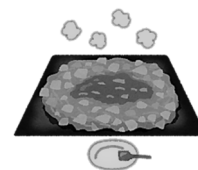
《引っ越し(ひっこし)で困(こま)ったこと》

お(お)お(お)や(や)さん(さん)が近(ちか)くにい(い)ない(ない)ので不(ふ)安(あん)です。

新(しん)聞(ぶん)を捨(す)てるとこ(こ)ろがわ(わ)か(か)ら(ら)ない(ない)です。み(み)ん(ん)な(な)一(いっ)っ(っ)し(し)ょ(ょ)に(に)考(かん)え(え)て(て)ほ(ほ)しい(しい)です。

み(み)ん(ん)な(な)で(で)一(いっ)っ(っ)し(し)ょ(ょ)に(に)ご(ご)飯(はん)に行(い)け(け)たら(ら)い(い)ね(ね)。遊(あそ)び(び)に(に)来(き)て(て)ね(ね)。

機(き)会(かい)があ(あ)つ(つ)たら(ら)呼(よ)び(び)ま(ま)す(す)。



(スウワ・K)

たびだち かい おうえん ねが
出発(たびだち)のなかま(なかま)の会(かい)の応援(おうえん)よろ(よろ)しくお願(ねが)い(い)し(し)ま(ま)す(す)!

い(い)つ(つ)も(も)当(とう)会(かい)の活(かつ)動(どう)に(に)ご(ご)支(し)援(えん)い(い)た(た)だ(だ)き(き)あ(あ)り(り)が(が)と(と)う(う)ご(ご)ざ(ざ)い(い)ま(ま)す(す)。今(こん)後(ご)も(も)“地(ち)域(いき)で支(し)援(えん)を(を)必(ひつ)要(よう)と(と)して(して)い(い)る(る)人(ひと)”に(に)必(ひつ)要(よう)な(な)支(し)援(えん)が(が)で(で)き(き)る(る)よ(よ)う(う)に(に)、“生(い)き(き)に(に)く(く)さ(さ)を(を)抱(かか)え(え)た(た)人(ひと)”が(が)社(しゃ)会(かい)か(か)ら(ら)孤(こ)立(りつ)す(す)る(る)こ(こ)と(と)が(が)な(な)い(い)よ(よ)う(う)に(に)、当(とう)事(じ)者(しゃ)の(の)方(かた)や(や)地(ち)域(いき)の(の)方(かた)と(と)共(とも)に(に)、日(ひ)々(じつ)の(の)活(かつ)動(どう)を(を)と(と)お(お)し(し)て(て)『地(ち)域(いき)』づ(づ)くり(り)の(の)取(と)り(り)組(ぐ)み(み)を(を)す(す)す(す)め(め)て(て)い(い)き(き)たい(たい)と(と)思(おも)い(い)ま(ま)す(す)。正(せい)会(かい)員(いん)、寄(よ)付(つ)者(しゃ)と(と)して(して)出(で)発(はつ)の(の)な(な)か(か)ま(ま)の(の)会(かい)の(の)活(かつ)動(どう)を(を)ご(ご)支(し)援(えん)く(く)だ(だ)さ(さ)い(い)!

◆正(せい)会(かい)員(いん)・・・活(かつ)動(どう)を(を)支(し)援(えん)し(し)、総(そう)会(かい)に(に)参(さん)加(か)し(し)て(て)く(く)だ(だ)さ(さ)る(る)個(こ)人(じん)の(の)方(かた)
 会(かい)費(ひ)3,000円(えん)+通(つう)信(しん)送(そう)料(りょう)300円(えん) 計(けい)3,300円(えん)

◆寄(よ)付(つ)者(しゃ)・・・活(かつ)動(どう)を(を)支(し)援(えん)し(し)て(て)く(く)だ(だ)さ(さ)る(る)個(こ)人(じん)・団(だん)体(たい)の(の)方(かた)
 寄(よ)付(つ)金(きん) 年(ねん)間(かん)3,000円(えん)以上(いじょう)

★認(にん)定(てい)NPO法(ほう)人(じん)と(と)して(して)認(にん)定(てい)さ(さ)れ(れ)ま(ま)し(し)た(た)の(の)で(で)、当(とう)会(かい)へ(へ)の(の)寄(よ)付(つ)は(は)、税(ぜい)制(せい)上(じょう)の(の)優(ゆう)遇(ぐう)措(そ)置(ち)【所(しょ)得(とく)税(ぜい)・個(こ)人(じん)住(じゅう)民(みん)税(ぜい) (大(お)阪(さ)市(し)内(ない)・府(ふ)内(ない)に(に)お(お)住(す)ま(ま)い(い)の(の)方(かた)】を(を)受(う)け(け)ら(ら)れ(れ)る(る)よ(よ)う(う)に(に)な(な)り(り)ま(ま)し(し)た(た)。

☆振(ふ)込(こ)み(み)先(さき)：郵(ゆう)便(びん)振(ふ)替(か) 00910-9-306080

特(とく)定(てい)非(ひ)営(えい)利(り)活(かつ)動(どう)法(ほう)人(じん) 出(で)発(はつ)の(の)な(な)か(か)ま(ま)の(の)会(かい)

活動のあと

- 4/12 執行委員会
- 4/14 サラダボウルプログラム(松野農園)
- 4/17 とんぼまるのサービスをよくする会議
- 4/18 医療的ケア連絡協議会定例会
- 4/20 食と農のプロジェクトをすすめる会/ドロン
生野子育て社会化研究会
- 4/23 障大連・事業所ネットワーク全体会議第 1 グループ会議
- 4/24 二者会議(かなえ塾(松野農園))
- 4/25 生野区学童期のこども支援連絡会
- 4/26 どんどん懇談会/内部研修(ワンポイント講座)
- 4/28 サラダボウルプログラム(松野農園)/障大連総会
- 5/1 和楽苦荘のサービスをよくする会議
- 5/6 食と農のプロジェクト「かなえ塾」お茶摘み(養父市)
- 5/8 出発通信発送
- 5/9 グループホームスタッフ全体会議
- 5/10 執行委員会
- 5/12 サラダボウルプログラム(松野農園)
ちまたのコンサート/HIT 理事会
第 24 回全国の集い in Osaka 2018 実行委員会
- 5/13 内部研修(グッドスタート会議)
- 5/14 生野子育て社会化研究会
- 5/16 理事会/第 24 回全国の集い in Osaka 2018 総務部会
- 5/17 とりの木消防自主点検
- 5/18 食と農のプロジェクトをすすめる会/ドロン(松野農園)
障大連大阪市内ブロック会議
- 5/20 みらくるクラブ【キャンプ準備登山】(金剛山)
- 5/22 作業所ミーティング/内部研修(ワンポイント講座)
- 5/23 スクラム講演会(どんどん)/防災委員会
生野区学童期のこども支援連絡会/生野区 NPO 連絡会
- 5/24 執行委員会
- 5/25 障大連運営委員会/地域共生ケア生野推進委員会
- 5/26 NPO 総会・どんどん総会/内部研修(発達障害勉強会)
NPO カフェ/サラダボウルプログラム(松野農園)
- 5/28 ヨルダンひろば ぶれーぱーく 準備会
- 6/1 食と農のプロジェクト・アクションチーム会議
- 6/4 執行委員会
- 6/4~29 区民ギャラリー出展
- 6/5 NPOHIT・出発のなかまの会合同研修報告会
- 6/6 不登校ひきこもり支援連絡会
- 6/8 グループホームスタッフ全体会議
- 6/9 みらくるジャンプ(松野農園)
「地域で自分らしく生きる」をめざす実行委員会
- 6/13 ヨルダンひろば ぶれーぱーく 準備会
生野区グループホーム連絡会
- 6/13~15 N さん東京旅行
- 6/15 内部研修(ワンポイント講座)
食と農のプロジェクトをすすめる会
子育てサポーター養成講座①
- 6/16 フラワーアレンジメント(松野農園)
HIT 総会/K さんハーブコンサート
- 6/17 みらくるクラブ【キャンプ準備会】(すきっぷ)
- 6/19 和楽苦荘のサービスをよくする会議
感染症・食中毒予防対策研修①
- 6/20 防災委員会/生野区学童期のこども支援連絡会
- 6/21 O さん兄弟名古屋日帰り旅行/障大連グループホーム部会
- 6/22 感染症・食中毒予防対策研修②/ドロン(松野農園)
生野南防災会議/地域共生ケア生野推進委員会役員会
大阪障害者救援本部会議
- 6/22~24 ふくしま合宿 2018
- 6/23 サラダボウルプログラム(松野農園)
- 6/25 第 24 回全国の集い in Osaka 2018 総務部会
- 6/26 いくみん・たびだち合同運動会
作業所ミーティング/生野区 NPO 連絡会
- 6/27 ILP(自立生活プログラム)講座【楽しいお出かけ編①】
- 6/27~28 女子会旅行 in 城崎温泉
- 6/29 内部研修(対人援助とコミュニケーション研修)
子育てサポーター養成講座②
- 6/30 内部研修(発達障害勉強会)/読書会(松野農園)
- 7/2 内部研修(人権研修①)
- 7/2~14 「idea の島々」展 出展
- 7/3 ふくしま合宿 2018 報告会
- 7/4 市民後見人養成講座受講
ヨルダンひろば ぶれーぱーく 準備会
- 7/4~7 長野旅行
- 7/5 N さん東京旅行報告会/滋賀短期大学講演(どんどん)/集団指導
- 7/6 グループホームスタッフ全体会議
- 7/7 第 24 回全国の集い in Osaka 2018 実行委員会
- 7/9 対府交渉総決起集会・デモ行進
- 7/11 女子会旅行 in 城崎温泉報告会
- 7/12 執行委員会「こどもの居場所」意見交換会
- 7/13 内部研修(ワンポイント講座)
- 7/14 サラダボウルプログラム(松野農園)/生野区 NPO 連絡会総会
- 7/15~16 みらくるクラブ高取山キャンプ(滋賀県)
- 7/18 生野区学童期のこども支援連絡会
- 7/19 ILP(自立生活プログラム)講座【スケジュール管理編①】
障大連グルホ世話人研修会①/ほうぶ運営委員会
- 7/20 長野旅行報告会
食と農のプロジェクトをすすめる会(生野会館)
生野南避難所設営訓練
人権クラブの「スウェーデン音楽とダンス」の会
- 7/23 ケア別研修①/障害者防災リーダー養成講座 part II 受講
- 7/24 どんどん学習会(対府交渉)/てんかん基礎講座受講
内部研修(発達障害勉強会)
- 7/25 成年後見推進委員会/ヨルダンひろば ぶれーぱーく 準備会
- 7/26 どんどん学習会(カンボジア報告)
- 7/27 ケア別研修②/ドロン(松野農園)/障大連運営委員会
地域共生ケア生野推進委員会
- 7/30 知的障害者ガイドヘルパー養成講座講師(松原高等学校)
- 7/31 三重大学講演(どんどん)/作業所ミーティング
- 8/1 グループホームスタッフ全体会議
- 8/2 インターンシップ受入れ開始/大阪障害者救援本部会議
- 8/2~3 友が島キャンプ
- 8/4 あかるいみらい準備室講演会(どんどん)
- 8/6 大阪府オールラウンド交渉①
第 24 回全国の集い in Osaka 2018 総務部会
防災委員会
- 8/7 内部研修(てんかん発作①)/執行委員会
- 8/8 内部研修(てんかん発作②)/新人職員研修(どんどん)
- 8/9 大阪府オールラウンド交渉②
- 8/10 そうめん流し交流会
- 8/17 食と農のプロジェクトをすすめる会(社会福祉協議会)
みらくるクラブ【高取山キャンプ】振り返り会
- 8/18 読書会(松野農園)
- 8/19 ヨルダンひろば ぶれーぱーく
- 8/20 災害支援「大阪一斉街頭カンパ」活動(桃谷駅)
ひとり暮らし応援委員会
- 8/22 大阪府オールラウンド交渉③/生野区 NPO 連絡会
- 8/23 ILP(自立生活プログラム)講座【楽しいお出かけ編②】
- 8/24 ドロン(松野農園)/地域共生ケア生野推進委員会役員会
生野南防災会議/障大連運営委員会
- 8/25 内部研修(発達障害勉強会)
- 8/27 障大連・事業所ネットワーク全体会議第 1 グループ会議
- 8/28 作業所ミーティング/安全委員会
- 8/29 ランチ交流会 with ちゅうぶ
- 8/30 友が島キャンプ報告会/成年後見推進委員会
ILP(自立生活プログラム)講座【スケジュール管理編②】
- 8/31 内部研修(ワンポイント講座)
成年後見推進委員会「権利擁護たかつき」訪問

一九八四年八月二十日 第三種郵便物認可 毎月 1・2・3・4・5・6・7・8 の日 発行
 発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二一 一 東興ビル 4 階 頒価百円

編集後記

今年もあと少し。いろんな災害、事件。いたいの世の中どうなるのかと不安な中、メンバーの笑顔を見ると私も自然と笑顔に。こんな日常のように日本中に一日でも早く笑顔が咲きますように。(アヤノ・F)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会
 〒544-0011
 大阪生野区田島1-10-30 たびだち共働作業所内
 TEL 06-6758-6641
 FAX 06-6758-6749
 郵便振替 00910-9-306080
 (特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
 Eメール nakamanokai-1@tabidati.jp
 ホームページ http://www.tabidati.jp/ 750 部